

生徒 面接練習重ね"本番" 企業 人材獲得へ競争激化



中国木材でグループ面接に臨む高校生たち（手前）

高卒採用選考始まる

来春卒業予定の高校生を対象にした企業の採用選考が16日に解禁された。県内でも早速、就職を希望する生徒たちが試験本番に臨んだ。

能代市扇田に工場を建設中の製材国内最大手「中国木材」

（広島県呉市）は、敷地内の仮設事務所

で筆記と面接の試験を実施。県北部の高校生を中心に複数人が受験した。

試験後、生徒の一人は「知

りた。今後の応募の伸びに期待したい」と話した。

工作機械・機械プラント製造の日本精機（秋田市）も16日に採用試験を開始。応募があった3人のうち、2人の面接を実施した。生徒の一人は「職場見学で作業風景を見せてもらい、ここで働きたいという気持ちが固まった。試験が終わり一段落だが、内定が出るまで落ち着かない」と語った。

同社は元々、募集対象を工業系高校の生徒に限定していたが、同業他社大手などの獲得競争が激しく、1人も採用できない時期が続いた。そこで3年前から、工業系以外にも応募できるような条件を緩和。以降は年に2、3人ずつを採用できている。

採用担当の三浦浩一事務取締役（①）は「入社前に専門的な知識がない生徒でも、ものづくりへの情熱があれば立派な技術者に成長できる。貴重な新入社員を大事に育てていきたい」と話した。

秋田労働局によると、高卒予定者に対する県内企業の求人数は4368人（7月末時点）で、前年同期に比べ7%（286人）増加。医療・福祉を除く主な産業全てで前年同期を上回った。

人がこの春に入社し、社内教育を見込むが、現時点での応募数は目標に届いていない。担当者がこれまでに本県や青森県、岩手県の約200校を直接訪れて業務内容をPRしている結果につながるとい

で良い結果につながるとい

と語った。

同社は2024年の能代工場稼働に向け、先行して本県

での採用活動を進めており、

昨年度は能代市内の高校生3

人を採用した。本年度からは

今、東北の高校生に、自社

の業務を広く知ってもらうこ

と、東北での認知度が

低いこともあり、反応はいま

ひとつという。

能代プロジェクト室の松浦

健次郎課長（②）は「とにかく

が、東北の高校生に、自社

の業務を広く知ってもらうこ

と、東北での認知度が

とが先決と考えて動いている。今後の応募の伸びに期待したい」と話した。

同社は元々、募集対象を工業系高校の生徒に限定していたが、同業他社大手などの獲得競争が激しく、1人も採用できない時期が続いた。そこで3年前から、工業系以外にも応募できるような条件を緩和。以降は年に2、3人ずつを採用できている。

採用担当の三浦浩一事務取締役（①）は「入社前に専門的な知識がない生徒でも、ものづくりへの情熱があれば立派な技術者に成長できる。貴重な新入社員を大事に育てていきたい」と話した。

秋田労働局によると、高卒予定者に対する県内企業の求人数は4368人（7月末時点）で、前年同期に比べ7%（286人）増加。医療・福祉を除く主な産業全てで前年同期を上回った。

一方、就職を希望する生徒や、少子化で生徒数自体が減るうち県内就職希望者は12少していることなども影響し、求職者に有利な「売り手市場」となっている。（加藤龍太郎）